

## ◆安曇野市議会6月定例会 小林じゅん子の一般質問◆

### Q1. 化学物質過敏症の認識を広め 香害対策を

柔軟剤をやめてみませんか！合成香料の成分に有害な化学物質が！！

柔軟剤や香り付き合成洗剤など、身近な生活用品に含まれている化学合成の香料による健康被害「香害」は年々広がってきている。とりわけ化学物質の影響を受けやすい発達期の子どもには特に注意が必要であるとの認識から、安曇野市と安曇野市教育委員会では、4年前から「香害」の啓発や、柔軟剤など合成香料を多用した製品の使用自粛を呼び掛けている。この取り組みは、4年前当時は全国でも数えるほどであったが、現在は100を超える自治体に広がっており、「香害」の深刻さがうかがえる。

**Q1【小林質問】** 柔軟剤等の香りの害「香害」は、においや香りの好きずきといった問題ではなく、合成香料の基である危険な化学物質が空気中に氾濫している深刻な問題だ。市役所をはじめとする市の公共施設では、職員が柔軟剤等の香り付け製品をなるべく使わない等、香りのパリアフリー化が必要ではないか。

**【総務部長】** 職員が香害を正しく認識するため市の産業医とも相談していく。

**【教育部長】** これまでも家庭向け通知等で周知してきたが、さらに他部局とも連携し香害対応を研究していく。

**【保健医療部長】** 平成30年から市独自に香料自粛のポスターを作成し掲示しているが、まずは化学物質過敏症について広く知ってもらうことが大切。

**【小林質問】** 香害の危険性が叫ばれるようになった昨今、さらなる情報発信はどのように進めていくか。

**【教育部長】** 従来の通知やポスター掲

示の取り組みに加え、公立の幼稚園・認定こども園でも、関係者へ周知を行っているところだ。

**【保健医療部長】** 広く一般市民に知ってもらえるよう、市のホームページで香害の啓発を行いたい。

**【小林質問】** 香害によって化学物質過敏症を発症することがあるが、その診断で障害者手帳を取得できるか。

**【福祉部長】** 化学物質過敏症自体を条件とした手帳の取得はできないが、これが元で様々な症状が出て生活に支障を来すなど、医師から診断がされれば障害者手帳の申請ができる。

## 香害をなくす議員の会 キックオフ！発足しました

8月10日、全国の地方議員約60人が集まり「香害をなくす議員の会」を発足させました。

まずは『香害』ってなに？ですが、柔軟剤、合成洗剤、消臭除菌スプレー、制汗剤、芳香剤などの強い香りを伴う製品による健康被害のことです。体臭は含みません。（体臭を感じた・吸い込んだ、としても健康被害はないからです）

この『香害』を一過性の話題に終わらせず、生活用品による有害化学物質汚染（公害）と捉え、真に解決すべき社会問題であるとの認識に立ち、議員同士がつながり、情報を共有し、深め、香害をなくすために活動します。

## 小林じゅん子から重要なお知らせ

～「無党派」（会派）は解散 一人の無所属議員にもどりました～

2022年7月31日をもって、私が所属する「無党派」という名称の会派を解散しました。増田望三郎議員、橋本裕二議員、増井裕壽議員、そして小林純子は、8月1日から安曇野市議会においては、会派に属さない無所属の議員となりました。去年の選挙後に会派を組んで、まだ1年もたっていないのに、なぜ解散することになったのか。そのことを報告する前に、「なぜ『無党派』なんてまざらわしい名前の会派を組んだのか」を、思い出していただくために、手みじかに説明しておきます。

安曇野市議会では、会派に属さず無所属議員になると、議会運営委員会に入れません。この差別的なルール（先例）により、私は14年間一度も議会運営委員を経験できませんでした。議会運営委員会は議会の運営を大きく左右するので、そこに関われないことは本当にもどかしかった。3年前にやっと、無所属が3人以上いれば、その内1人が代表として議連に入れるようになりました。ただし、4人いても5人いても、6人いたって代表だから1人だけ。

昨年の改選後、無所属でいこうと決めた議員が4人いたことから、4人で会派を組んで議連に2人出そうとい

うことになり、以下のような合意のもと、「無党派」の名称で会派届を出しました。

\*「無党派」は、会派を組まないことの不利益を避けたい議員の集まりである。  
\*一人ひとりが自立した議員として、常に自己研鑽に努め、自由闊達な議論の積み重ねにより積極的に政策提案を行っていく。じっさい、この理念のもと、若手2人、3期目の中堅、5期目のベテランが、常に自己研鑽に努め、自由闊達な議論を交わし、自立した議員として己の信念に従い活動してきました。無所属議員が4人いるだけだと差別を受けるので、会派を名乗ることで差別を回避したわけですが、こんな理不尽なことはないと思います。

今回の無党派（会派）の解散は、メンバーそれぞれの政治的スタンスが大きくずれてしまったとか、そういう理由ではありません。そうではなく、無党派（会派）とは別に無所属の議員が一人出現したことにあります。先月半ばのこと、内川集雄議員が会派あつみ野を離脱して無所属となられたのですが、もともと無所属である無党派（会派）の4人は「一人の無所属議員と、もともと無所属の無党派（会派）が並（裏面へ続く）」

### あなたのその香り

### 香害かも？



▲日本消費者連盟の香害啓発ポスターより

## この数字は？

### ゼロから5人に

無所属議員の数が増えても  
会派優先の議会運営が続く

.....  
(表面からの続き)んで存在する状態」  
に違和感を持ちました。

**無**会派(会派)に国民民主党の内川議員が所属することは困難なので、1人の無所属議員となることで差別される立場に置かれるのです。もともと無所属の4人は、無会派を名乗ることで会派として認められ差別されない。安曇野市議会の理不尽さが際立つ状態となるなか、無会派(会派)を続けることは差別を認める側になることにほかならず、解散して4人の無所属議員にもどることを選択したのです。

**8**月5日の議会運営委員会では、さっそく会派異動に伴う委員会等の構成について検討する必要があるということになり、3案が提示されました。  
①先例に基づいて行う。議運は無所属3人以上から1人、残りは会派で按分。議会改革委、広報委は無所属への割り当て無し。これで決まると、私は議運に残れない可能性が高いです。そして、現在、議会改革委員長の増田議員、同委員の橋本議員は委員会から外れます。議会広報委員長長の増井議員や副委員長長の私も外れることとなります。そのほか、広域連合や一部事務組合の議員等も外れる可能性があります。内川議員も同様に、無所属だからと外れる委員会があります。

②としては、議運は先例通りに決め直し、ほかの委員会等は残りの任期(来年の10月までは)現状を継続する。そして③として、やっと、先例を見直す(無所属議員も平等に扱うことにする)というのが出てきました。無会派(会派)解散は、③の見直しを期待してのことでもありますが、どうなることやら。会派を組む人たちは、「安曇野市議会は会派制だ」「議会はルールに従うべき」「先例で決まっている」と言うのですが、議会の大原則「議員平等の原則」を無視したルールや先例は違法・無効です。

◆昨日8月17日開催の議運では、当面、上記①の先例により無所属議員を扱うこととし、早急に③の先例の見直しをすることになりました。

**議員平等の原則や如何に！  
今後にご注目を！！**

## 三郷西部認定こども園建設 市有林のスギ・ヒノキを活用 ～安曇野市の農林部・林務係が大活躍～

.....  
安曇野市には、三郷室山、堀金烏川に市有林があり、これまでも市庁舎の建設に市有林の材を有効活用してきました。現在、三郷西部認定こども園の建設が進んでいますが、園舎建築には市有林のスギ、ヒノキを伐採して使うことになっています。地元材を使ったぬくもりのある園舎が完成すれば、市が目指すSDGsにも貢献できます。

**先**月28日、三郷西部保育園の起工式が行われました。

近隣の市町村では建造物の工事の入札不調や延期が相次ぐ中、再入札もあったもののその後無事落札され、工事が始まりました。

なぜ安曇野市は計画通りにスタートできたか。それは、他市町村では工事費積算の段階で、木材等の建設資材高騰の影響をまろに受けたが、安曇野市では木材料の値上がり率が1割程で済んだからなのです。

**ま**ず、市有林の材を使いますから、立木代がかかりません。伐採・集材・運搬は業者にやってもらいますが、そのあとは、市内の木材加工業者に持ち込みます。木取りした後、隣接する製材業者で製材。そして、再び木材加工業者に戻して、乾燥、加工をし、製品化される。市内一か所まで製品化までできるので、工程毎の運材費等の余計な経費が掛からない。

**安**曇野市の耕地林務課では、里山再生プロジェクト、通称「さとぶろ」を始めた8年ほど前から、地元材(市有林材も含め)を伐採して加工する過程の見



直しと、地元材利用の仕組み作りの検討を進めてきましたが、その成果が目に見える形となりました。

**安**曇野市には、雄大な北アルプスを含めた緑豊かな森林があり、市総面積のおよそ3分の2にあたります。かつて私たちの生活に欠かせない自然環境であった里山の森林が、生活様式の変化などに伴い利用することが少なくなり、松枯れ被害や鳥獣被害など様々な問題が生じていますが、その一方で戦後復興のために1950～70年ごろにかけて植林されたスギ、ヒノキ、カラマツの針葉樹林が、今や50年生以上になり主伐期になっており、これを使わない手はないと市耕地林務課は考えたのです。

**こ**こに至るまでの市の耕地林務課の試みと積み重ねた経験値が、今回のウッドショック、ウクライナショックでカナダ、アメリカ、ロシアから木材輸入がストップしたにも関わらず、木をふんだんに使った三郷西部保育園の工事をスタートできた要因です。

**市**の松枯れ対策についても、最終的な方向性の判断を下す局面を迎えています。これまで県や市の林政に多少なりとモノ申してきた者としては、今後の市林務係の更なる活躍を期待したい。

諫山憲俊さん(安曇野市穂高) 寄稿

## あづみ野ランド※の大規模改修計画に 住民監査請求

あづみ野ランドの大規模改修=プールを廃止し入浴施設を拡大する計画が7億3,150万円で動き出しましたが、プール存続を望む住民の声はまだまだやまず。それもそのはず、地域住民や利用者へのアンケート調査もやっていませんでした。プールはいらない、なんて誰の声? 「プールを残して改修すると10億7,800万円もかかるのでプールは廃止」という説明でしたが、決った後から「現状維持が必要最小限の改修だと3億2,000万円」という改修見積りが出てきてビックリ!でした。

そこで、3～4億円でプールを廃止しないプランを再検討してもらうために、穂高広域施設組合の監査委員に「あづみ野ランドの7億円大規模改修のための設計業務委託料38,786,000円の支出の差し止め」を求めて、7月15日、小林じゅん子を代表に5人の住民が連名で住民監査請求を行いました。(監査の結果は、二人の監査委員の合議により、受け付けた日から60日以内に決定されます)

あづみ野ランドの  
プール残して!!